

一般質問

嶋田
議員

○市内小中学校のトイレ改修について

質 市内小中学校の築年数が古くなり、使用できないトイレが目立っていると思うが、小学校、中学校別にトイレの状況はどうなっているか伺います。

教育総務課長 現在の小中学校合わせたトイレの数は、合計426基です。このうち、小学校では11基、中学校では9基が使用不能となっております。小中合わせて全体の4%に当たる20基が現在使用不能となっております。多くが水洗の不具合であり、排水管の詰まりなどが要因だと思われ

質 新一年生が和式のトイレを使用するのが怖いとの声もあるが、改修について市長の考えを伺います。

市長 学校施設のトイレは、快適化、バリアフリー化など、新たな社会的要請に対応するために教育環境の質的向上が求められており、教育活動に支障を来さぬよう、適宜修繕を図りたいと考えています。また、洋式トイレの比率を60%〜70%程度まで引き上げたいと考えています。なお、小さな児童の課題について

は、実態を調査した上で、対応について教育委員会と協議したいと思えます。

○小中学校の併設について

質 併設することのメリット、デメリットについて伺います。

学校教育課長 メリットとしては、小学校教育から中学校教育への円滑な接続が期待できます。さらに、小学校6年間と中学校3年間の9年間を通じた小中一貫型小学校・中学校への移行も検討しやすくなります。

デメリットとしては、体育館や音楽室、家庭科室などを利用する際の小中学校間での連絡調整が大変であるということや6年生が中学生に遠慮してリーダー性を発揮しづらいといったことがあります。

質 今後、市内の小中学校の併設の考え方について伺います。

教育長 学校の適正配置の基本的な考え方として「小学生は地域で育てる」「中学生はより多くの同世代の中で育てる」「福島・鷹島地域は松浦地域と分けて考える」の3つの考えを持っており、小学校は学校規模に関わらず現状の配置を維持し、中学校は、今後の人口減少と少子化の状況を見極め、一学年複数クラスの確保を目標とし、統合を検討する考えです。現在、松浦地域において、新たな小中併設校というのは考えていません。

一般質問

川下
議員

○魚市場敷地内及び隣接地の野良猫対策について

質 厳格な衛生管理が求められる施設の近くに猫がいるのは好ましくないとと思うが、市の考えを伺います。

水産課長 松浦魚市場は、EU-HACCPの認定を受けた施設であり、徹底した衛生管理が求められており、設置管理者として敷地内に猫がいることは好ましくないと考えています。

質 県は殺処分ゼロを目指しているが、野良猫対策の一つとして殺処分は選択肢の中にあるのか伺います。

市民生活課長 基本的には県の所管となりますが、市の方針として殺処分という方針はありません。

質 餌やりを続けている人もいる現状にあって、本当に解決するためには真剣に取り組む必要がある。任意の団体を作り地域猫化し、将来野良猫がいなくなるようにしなければと思うが、市の考えを伺います。

市民生活課長 長崎市、佐世保市以外における県内の地域猫活動の推進事業については、県が実施をしています。市は、県から要請があった場合に必要な協力を行いたいと考えて

います。

○若者の孤独・孤立に対する市の対応について

質 悩みを抱える児童生徒に対する、子育て・こども課のフォロー体制の状況を伺います。

子育て・こども課長 令和6年4月に子ども家庭センターを設置し、学校、保育所、民生委員や主任児童委員、また地域の方々、子育て中のご家族等からの情報や相談に随時対応し、支援を行っています。

質 令和5年度の相談件数と内容について伺います。

子育て・こども課長 113人、61世帯の取り扱いがあり、虐待や不登校、発達障害・知的障害等による適応困難、また親の精神疾患や生活困窮等、複数の要因が複雑に絡み合っているケースがほとんどでした。

質 全国では平成7年から令和4年まででスクールカウンセラーを設置している学校数は200倍増えたが、子どもの自殺数は4倍に増えている。厳しい状況に置かれている現場に応じた体制整備を進めていただきたいが、市の考えを伺います。

市長 子どもたちを守るための体制を確保するとともに、松浦市子どもサポート推進協議会の構成機関をはじめとして、地域全体で子どもたちとその家庭をサポートできるよう働き掛けていきたいと考えています。